

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-260230  
 (43)Date of publication of application : 13.09.2002

(51)Int.Cl.

G11B 7/0045

G11B 7/125

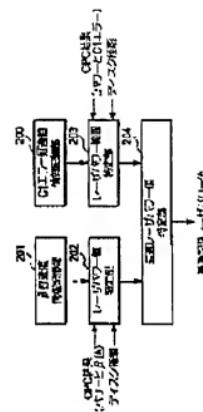
(21)Application number : 2001-058866  
 (22)Date of filing : 02.03.2001

(71)Applicant : YAMAHA CORP  
 (72)Inventor : MATSUMOTO KEIJI

**(54) METHOD FOR DECIDING OPTICAL DISK RECORDING LASER POWER AND OPTICAL DISK RECORDING DEVICE****(57)Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To reduce the occurrence of a recording error independent of the differences among recording optical disk products.

**SOLUTION:** Before a performance recording to the optical disk is carried out, a test recording is made, and the relation among a recording laser power value, a  $\beta$  value and a C1 error value is found based on the test result. Then, a laser power value specifying part 202 specifies the recording laser power value based on the relation among a preferred  $\beta$  value stored in a preferred  $\beta$  value information storage part 201, a power value and the  $\beta$  value. A laser power range specifying part 203 specifies a range which the recording laser power value can have based on the relation among a preferred C1 error value stored in a preferred C1 error value information storage part 200, the power value and the C1 error value. An optimal laser power value determining part 204 determines an optimal recording power based on the specified power value and the specified range.



(19) 日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-260230  
(P2002-260230A)

(43) 公開日 平成14年9月13日 (2002.9.13)

(51) Int.Cl.  
G 11 B 7/0045  
7/125

種別記号

F I  
G 11 B 7/0045  
7/125データカード (参考)  
B 5 D 0 9 0  
C 5 D 1 1 9

審査請求 审請求 請求項の数10 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号 特願2001-58866(P2001-58866)

(71) 出願人 000004075

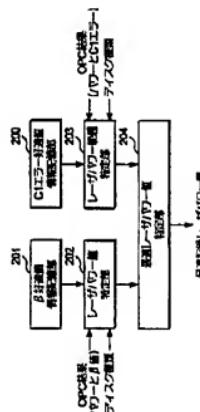
(22) 出願日 平成13年3月2日 (2001.3.2)

ヤマハ株式会社  
静岡県浜松市中沢町10番1号(72) 発明者 松本 圭史  
静岡県浜松市中沢町10番1号 ヤマハ株式  
会社内(74) 代理人 100098084  
弁理士 川▲崎▼ 研二  
Fターム(参考) SD090 AA01 BB03 BB04 CC01 CC05  
DD03 DD05 EE01 HH01 JJ12  
KK03  
SD119 AA23 AA24 BA01 DA01 DA09  
RA19 HA45

(54) 【発明の名前】 光ディスク記録レーザパワー決定方法および光ディスク記録装置

## (57) 【要約】

【課題】 記録する光ディスクの製品の個体差に関わらず、記録エラーの発生を低減する。

【解決手段】 光ディスクに対する光の記録を行う前に、テスト記録を行い、当該テスト記録の結果から記録レーザパワー値と、 $\beta$  値および C 1 エラー値との対応関係を求める。そして、レーザパワー値特定部 202 は、 $\beta$  好適値情報記憶部 201 に記憶された  $\beta$  好適値と、パワー値と  $\beta$  値との対応関係から記録レーザパワー値を特定する。レーザパワー範囲特定部 203 は、C 1 エラー好適値情報記憶部 200 に記憶された C 1 エラー好適値と、パワー値と C 1 エラー値との対応関係から記録レーザパワー値が取り得る範囲を特定する。最適レーザパワー値決定部 204 は、上記特定されたパワー値と特定された範囲とに属づいて最適な記録レーザパワー値を決定する。

(2)

特開2002-260230

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記再生ステップから、所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量と、記録レーザパワー値との関係を示す記録パワーハラメータ記録特性を求める記録パワーハラメータ記録特性導出ステップと、前記光ディスクにおける前記再生信号を用いた記録パワーハラメータ記録特性に基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワーフィードバック決定ステップとを具備することを特徴とする光ディスク記録レーザパワー決定方法。

【請求項2】 光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記再生ステップから、記録レーザパワー値と、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターやおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも1つとの関係を示す記録パワーハラメータ記録特性を求める記録パワーハラメータ特性導出ステップと、前記記録パワーハラメータ記録特性に基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワーフィードバック決定ステップとを具備することを特徴とする光ディスク記録レーザパワー決定方法。

【請求項3】 光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記再生ステップから、記録レーザパワー値と、 $\beta$ 値、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターや、デビエーション、交調度、反射率、再生信号の振幅といった記録品位に関するパラメータの各々との関係を示す記録パワーハラメータ記録特性を求める記録パワーハラメータ特性導出ステップと、複数の前記記録パワーハラメータ記録特性に基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワーフィードバック決定ステップとを具備することを特徴とする光ディスク記録レーザパワー決定方法。

【請求項4】 前記記録パワーハラメータ特性導出ステップでは、少なくとも記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係を示す前記記録パワーハラメータ記録特性を求め

ることを特徴とする請求項3に記載の光ディスク記録レーザパワー決定方法。

【請求項5】 前記パワー決定ステップでは、前記記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係を示す前記記録パワーハラメータ記録特性に基づいてレーザパワー値を特定するととともに、記録レーザパワー値と $\beta$ 値以外のパラメータとの関係を示す前記記録パワーハラメータ記録特性に基づいてレーザパワー値の取りうる範囲を特定し、特定したレーザパワー値が前記特定された範囲内にある場合には、当該特定したレーザパワー値を記録レーザパワー値として決定することを特徴とする請求項4に記載の光ディスク記録レーザパワー決定方法。

【請求項6】 前記再生ステップでは、前記テスト記録ステップにおける記録速度よりも小さい速度で前記テスト記録された領域を再生することを特徴とする請求項3ないし5のいずれかに記載の記録レーザパワー決定方法。

【請求項7】 前記再生ステップでは、前記テスト記録された領域を複数回再生して複数の再生信号を取得することを特徴とする請求項3ないし6のいずれかに記載の記録レーザパワー決定方法。

【請求項8】 光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録手段と、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、

前記テスト記録領域の再生信号から、所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量と、記録レーザパワー値との関係を示す記録パワーハラメータ記録特性を求める記録パワーハラメータ記録手段と、良好な記録を行ったための前記所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量を取りうる値を示す $\beta$ 変化量好適値情報を記憶する $\beta$ 好適値情報記憶手段と、前記 $\beta$ 好適値情報記憶手段に記憶されている $\beta$ 変化量好適値情報を、前記記録パワーハラメータ記録特性に基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザパワー値を決定するパワー決定手段とを具備することを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項9】 光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録手段と、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、

前記テスト記録領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターやおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも1つとの関係を示す記録パワーハラメータ記録特性を求める記録パワーハラメータ

10

20

30

40

50

(3)

特開2002-260230

4

特性導出手段と、

前記記録パワー・パラメータ記録特性に基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザパワー値を決定するパワー決定手段とを具備することを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項10】 光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、

光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録手段と、

前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、

前記テスト領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、 $\beta$ 値、フレーム間同期信号の検出回数、C1エラー、ジッター、デビエーション、変調度、反射率、再生信号の振幅といった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも2つ以上の記録品位に関するパラメータの各々との関係を示す記録パワー・パラメータ記録特性を求める記録パワー・パラメータ特性導出手段と、

複数の前記記録パワー・パラメータ記録特性に基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザパワー値を決定するパワー決定手段とを具備することを特徴とする光ディスク記録装置。

【発明の詳細な説明】  
【0001】  
【発明の属する技術分野】 本発明は、CD-R(Compact Disc-Recordable)やCD-RW(Compact Disc-ReWritable)などの光ディスクに情報を記録する際に良好な記録が行える記録レーザパワー値を決定する光ディスク記録レーザパワー決定方法および光ディスク記録装置に関する。

【0002】  
【從来の技術】 従来より、CD-RやDVD-R(Digital Versatile Disc-Recordable)等の光ディスクに対する記録方法として、標準の線速度(1倍速)よりも高い線速度(例えば、2倍速、4倍速、……等)で記録する高速記録が行われている。

【0003】 従来は、上記のような記録速度倍率に応じて記録レーザパワーや照射時間、照射開始タイミング等を調整するいわゆるストラテジーの変更により、各倍速の記録速度において読み取エラーの少ない記録を行うようになっていた。

【0004】 記録速度倍率に応じて記録レーザパワーを最適に制御する手法として、本番の記録に先立ち、光ディスクにおける所定の領域に、複数の記録レーザパワー値でテスト記録を行い、そのテスト記録削除の再生結果から最適な記録を行える記録レーザパワー値を求めるO.P.C.(Optimum Power Control:記録レーザ光の最適記録パワー調整)を実施する方法が提案されている。

【0005】 従来のO.P.C.では、テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係を

ばす記録レーザパワー値- $\beta$ 特性を求め、当該記録レーザパワー値- $\beta$ 特性を参照し、予め設定されている最適な $\beta$ 値に対応する記録レーザパワー値を最適な記録レーザパワー値として採用している。なお、 $\beta$ 値は再生信号品位に関するパラメータであり、光ピックアップの戻り光受光信号であるE.F.M.(Eight to Fourteen Modulation)信号波形のピークレベル(符号は+)をa、ボトムレベル(符号は-)をbとすると、 $(a+b)/(a-b)$ で求まる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上述した従来のO.P.C.では、予め設定された最適な $\beta$ 値に対応する記録レーザパワー値を決定するようになっている。すなわち $\beta$ 値のみを考慮して記録レーザパワー値を決定している。しかしながら、光ディスクの製品による特性が異なっている場合などには、単純に $\beta$ 値のみを考慮して決定した記録レーザパワー値で記録を行うと、記録状態の品位が悪化してしまうこともある。例えば、通常ほぼ楕円となる記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応関係が、光ディスクのひずみや色素むら等に起因し、図3に示すような対応関係となる場合がある。同図に示すように、この光ディスクは、 $\beta$ 値と記録レーザパワー値との対応関係が一部(図示の例では $\beta$ 値が1.0近傍、記録レーザパワー値が1.6mW近傍)を除いてほぼ楕円的特性を行っている。このような特性を有する光ディスクに対して記録を行う際には、 $\beta$ 値が特異に変化する $\beta$ 値特異点B.T.に対応する記録レーザパワー値(例えば、1.6mW)で当該特性を有する光ディスクに記録を行うと、良好な記録状態品が得られない場合がある。

【0007】 本発明は、上記の事情を考慮してなされたものであり、記録する光ディスクの製品による個体差等に問わらず、記録エラーの発生を低減することが可能な記録レーザパワー値を求める光ディスク記録レーザパワー決定方法、および光ディスク記録装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、本発明に係る光ディスク記録レーザパワー決定方法は、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記テスト記録領域の再生信号から、所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量と、記録レーザパワー値との関係を示す記録パワー- $\Delta\beta$ 記録特性を求める記録パワー- $\Delta\beta$ 記録特性導出ステップと、予め記憶されている良好な記録を行ったための前記所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量が取りうる値を示す $\beta$ 変化量好適情報と、前記記録パワー- $\Delta\beta$ 記録特性とに基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワー決定ステップとを具備すること

50

(4)

特許2002-260230

5

6

を特徴とする。

【0009】この方法によれば、テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と $\beta$ 値の変化量である $\Delta\beta$ 値との関係を求め、当該 $\Delta\beta$ 値を考慮して記録レーザパワー値を決定するようしている。したがって、ディスクの歪みや色素むら等といった製品の個体差等によって記録レーザパワー値に対して $\beta$ 値が特異に変化する、いわゆる $\beta$ 特異点を有する特性の光ディスクもあるが、このような特性を有する光ディスクに対してても良好な記録を行える記録レーザパワー値を決定することができる。

【0010】また、本発明に係る光ディスク記録レーザパワー決定方法は、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも1つとの関係を示す記録パワー-パラメータ特性導出ステップと、前記記録パワー-パラメータ記録特性に基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワー決定ステップとを特徴とする。

【0011】この方法によれば、テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係ではなく、記録レーザパワー値とフレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも1つとの関係を求めて、この関係を考慮して記録レーザパワー値を決定するようしている。したがって、ディスクの歪みや色素むら等といった製品の個体差等によって記録レーザパワー値に対して $\beta$ 値が特異に変化する、いわゆる $\beta$ 特異点を有する特性の光ディスクもあるが、このような特性を有する光ディスクに対してても良好な記録を行える記録レーザパワー値を決定することができる。

【0012】また、本発明に係る光ディスク記録レーザパワー決定方法は、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録ステップと、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生ステップと、前記テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、 $\beta$ 値、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッター、デビエーション、変調度、反射率、再生信号の振幅といった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも2つ以上の記録品位に関するパラメータの各々との関係を示す記録パワー-パラメータ記録特性を求める記録パワー-パラメータ特性導出ステップと、複数の前記記録パワー-パラメータ記録特性に基づいて、記録レーザパワー値を決定するパワー決定ステップとを具備することを特徴とする。

従つてする。

【0013】この方法によれば、テスト記録された領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、 $\beta$ 値、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも2つ以上の関係を求めて、複数の記録品位に関するパラメータを考慮して記録レーザパワー値を決定するようしている。したがって、ディスクの歪みや色素むら等といった製品の個体差等によって記録レーザパワー値に対してある1つのパラメータが特異に変化する。例えば $\beta$ 値が特異に変化する、いわゆる $\beta$ 特異点を有する特性の光ディスクもあるが、このような特性を有する光ディスクに対してても良好な記録を行える記録レーザパワー値を決定することができる。

【0014】また、本発明に係る光ディスク記録装置は、光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録手段と、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、前記テスト記録領域の再生信号から、所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量と、記録レーザパワー値との関係を示す記録パワー- $\Delta\beta$ 記録特性を求める記録パワー- $\Delta\beta$ 特性導出手段と、直好な記録を行うための前記所定の単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量を取りうる値を示す $\beta$ 変化量好適値情報を記憶する $\beta$ 好適値情報記憶手段と、前記 $\beta$ 好適値情報記憶手段に記憶されている $\beta$ 変化量好適値情報と、前記記録パワー- $\Delta\beta$ 記録特性とに基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザパワー値を決定するパワー決定手段とを具備することを特徴とする。

【0015】また、本発明に係る光ディスク記録装置は、光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテスト記録手段と、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、前記テスト記録領域の再生信号から、記録レーザパワー値と、フレーム同期信号の検出回数、C1エラー、ジッターおよびデビエーションといった記録品位に関するパラメータのうち少なくとも1つとの関係を示す記録パワー-パラメータ特性導出手段と、前記記録パワー-パラメータ記録特性に基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザパワー値を決定するパワー決定手段とを具備することを特徴とする。

【0016】また、本発明に係る光ディスク記録装置は、光ディスク上にレーザ光を照射して情報を記録する光ディスク記録装置であって、光ディスクの本番の記録に先立ち、当該光ディスクに対してテスト記録を行うテ

10

20

30

40

50

(5)

特開2002-260230

8

スト記録手段と、前記光ディスクにおける前記テスト記録された領域の再生信号を取得する再生手段と、前記テスト領域の再生信号から、記録レーザーパワー値と、 $\beta$  値、フレーム同期信号の検出回数、C I エラー、ジッター、デビエーション、変調度、反射率、再生信号の振幅といった記録品質に関するパラメータのうち少なくとも2つ以上の記録品質に関するパラメータの各々との関係を示す記録パワーパラメータ記録特性を求める記録パワーパラメータ特性導出手段と、複数の前記記録パワーパラメータ記録特性に基づいて、前記光ディスクに照射するレーザ光の記録レーザーパワー値を決定するパワー決定ステップとを具備することを特徴とする。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施形態について説明する。

## A. 第1実施形態

## A-1. 構成

まず、図1は本発明の第1実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成を示すブロック図である。同図に示すように、この光ディスク記録再生装置は、光ピックアップ10と、スピンドルモータ11と、RFアンプ12と、サーボ回路13と、アドレス検出回路14と、デコーダ15と、制御部16と、エンコーダ17と、ストラテジカル回路18と、レザードライバ19と、レーザパワーモード切換回路20と、周波数発生器21と、エンベロープ検出回路22と、C I エラー検出回路23と、 $\beta$  検出回路24とを備えている。

【0018】スピンドルモータ11は、データを記録する対象となる光ディスク（ここでは、CD-Rとする）Dを回転駆動するモータである。光ピックアップ10は、レーザダイオード、レンズやミラー等の光学系、および戻り光受光素子を有しており、記録および再生時にはレーザ光を光ディスクDに対して照射し、光ディスクDからの戻り光を受光して受光信号であるE FM変調されたRF信号をRFアンプ12に出力する。また、光ピックアップ10はモニタダイオードを有しており、光ディスクDの戻り光によってモニタダイオードに電流が生じ、当該電流がレーザパワー制御回路20に供給されるようになっている。

【0019】RFアンプ12は光ピックアップ10から供給されたE FM変調されたRF信号を増幅し、増幅後のRF信号をサーボ回路13、アドレス検出回路14、エンベロープ検出回路22、 $\beta$  検出回路24およびデコーダ15にRF信号を出力する。デコーダ15は、再生時にはRFアンプ12から供給されるE FM変調されたRF信号をE FM復調して再生データを生成する。

【0020】一方、記録が行われる時には、デコーダ15は、本番の記録に先立ち行われるテスト記録によって記録された領域を再生する際にRFアンプ12から供給されたRF信号をE FM復調し、復調した信号に基づい

てC I エラー検出回路23がC I エラーを検出し、制御部16に出力する。C I エラー検出回路23は、E FM復調された信号に対してC I R C (Cross Interleaved Read Solomon Code)と呼ばれる誤り訂正符号を用いたエラー訂正を行い、1サブコードフレーム(98 E FMフレーム)の中で1回目のエラー訂正ができないフレームの個数、すなわちC I エラーの回数を検出するのである。

【0021】本実施形態に係る光ディスク記録再生装置では、上述したように記録を行う際、当該本番の記録に先立ち、ユーザによって設定された記録速度で光ディスクDの内周側の所定の領域（図2参照）にテスト記録を行い、当該テスト記録した領域の再生結果に基づいて、当該光ディスクDに対して良好な記録を行える記録速度を求めるように構成されている。この光ディスク記録再生装置における1回のテスト記録では、記録レーザーパワー値を1段階に変化させて行い、1つの記録レーザーパワー値につき1サブコードフレーム分のE FM信号を記録し、合計15フレーム分のE FM信号が記録されるようになっている。

【0022】ここで、図2を参照しながら光ディスクD (CD-R) のテスト記録を行う領域について説明する。光ディスクDの直径46~50mmの区间がリードイン領域114として用意され、その外周側にデータを記録するプログラム領域118および残余領域120が用意されている。一方、リードイン領域114よりも内周側には、内周側PCA (Power Calibration Area) 領域112が用意されている。内周側PCA領域112には、テスト領域112aと、カウント領域112bとが用意されており、このテスト領域112aに、上述した記録装置の本番に先立つテスト記録が行われる。ここで、テスト領域112aとしてはテスト記録を多回行える領域が用意されており、カウント領域112bには、テスト記録終了時にテスト領域112aのどの部分までに記録が終了しているかを示すE FM信号が記録される。したがって、次にこの光ディスクDに対してテスト記録を行う際には、当該カウント領域112bのE FM信号を読み取ることによりテスト領域112aのどの位置からテスト記録を行えばよいかが分かるようになっている。

本実施形態に係る光ディスク記録再生装置では、本番の記録を行なう前に上述したテスト領域112aにテスト記録を行っているのである。

【0023】図1に示す、アドレス検出回路14は、RFアンプ12から供給されたE FM信号からウォブル信号成分を抽出し、このウォブル信号成分に含まれる各位階の時間情報（アドレス情報）、およびディスクを識別する識別情報（ディスクID）やディスクの色等等のディスクの種類を示す情報を復号し、制御部16に出力する。

【0024】 $\beta$  検出回路24は、上述したテスト記録領

10

20

30

40

50

(6)

錢開2002-260230

域を再生している際にRFアンプ12から供給されるEFM変調されたRF信号から再生信号品位に関するパラメータとして $\beta$ (アシンメトリー)値を算出し、算出結果を用いてRF6に送出する。なお、 $\beta$ 値は、EFM変調された信号波形のピークレベル(符号は+)をa、ボトムレベル(符号は-)をbとすると、 $(a+b)/(a-b)$ である。

【0025】エンペローブ検出回路22は、上述したテスト記録を行う前に、光ディスクDの所定のテスト領域のどの部分からテスト記録を開始するかを検出するためには、上述した光ディスクDのカウント領域112bのEPM信号のエンペローブを検出する。

【0026】サーボ回路13は、スピンドルモータ11の回転制御および光ピックアップ10のフォーカス制御、トラッキング制御、送り制御を行う。本実施形態に係る光ディスク記録再生装置では、ユーザによって設定された記録線速度で光ディスクDを駆動する方式(CLV: Constant Linear Velocity)で記録するようになっており、サーボ回路13は、制御部16から供給される設定速度を示す制御信号に応じて、設定された線速度でスピンドルモータ11を駆動するCLV制御を行うここで、サーボ回路13によるCLV制御では、RFアンプ12から供給されたEFM変調された信号のオップ幅信号が設定された線速度倍率になるようにスピンドルモータ11が制御される。

【0027】エンコーダ17は、供給される記録データをEFM変調し、ストラテジ回路18に出力する。ストラテジ回路18は、エンコーダ17から供給されたE FM信号に対して時間補正処理等を行い、レーディオライバ19に出力する。レーディオライバ19は、ストラテジ回路18から供給される記録データに応じて変調された信号と、レーディオライバ20の制御にしたがってビッグアップ10のレザダイオードを駆動する。

【0028】レーザパワー制御回路20は、光ピックアップ10のレーザダイオードから照射されるレーザパワーパーを制御するものである。具体的には、レーザパワー制御回路20は、光ピックアップ10のモニタダイオードから供給される電流値と、制御部16から供給される最適なレーザパワーの目標値を示す情報とに基づいて、当該最適なレーザパワーのレーザ光が光ピックアップ10から照射されるようにレーザドライバ19を制御する。

【0029】制御部16は、CPU(Central Processing Unit)、ROM(Read Only Memory)およびRAM(Random Access Memory)等の構成要素から成る。

(Random Access Memory) 等から構成されており、ROMに格納されたプログラムにしたがって当該光ディスク記録再生装置の装置各部を制御する。

【0030】まず、制御部16は、上述したように本番の記録に先立ち、当該光ディスク記録再生装置にセットされた光ディスクDの所定の領域に対し、上述したようなテスト記録を行うように装置各部を制御する。さら

に、制御部16は、上述したテスト記録された領域を再生している際に得られる信号から $\beta$ 検出回路24によって検出された $\beta$ 値およびC1エラー検出回路23によって検出されたC1エラーの検出回数のカウント値(以下、C1エラー値という)等に基づいて、ユーザに対して設定された記録速度で光ディスクDに対して記録を行なう際の最適な記録レーザパワー値を決定し、本番の記録時には決定した最適なレーザパワー値のレーザ光がビックアップ10から照射されるようレーザパワー削除回路20を制御する。このように最適な記録レーザパワー値を求める処理を行う際の制御部16の機能構成を次に示す。

【0031】同図に示すように、制御部16は、C1エラー好適値情報記憶部200と、 $\beta$ 好適値情報記憶部201と、レーザパワー値特定部202と、レーザパワー範囲特定部203と、最適レーザパワー値決定部204とを有している。

【0032】レーザパワー値特定部202は、上述した本番の記録に先立つO P Cにより得られた結果(複数の記録レーザパワー値と各レーザパワー値に対応するR

値から、記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応関係を示す記録パワー $\beta$ 特性を求める。レーザパワー値特定部202は、この記録パワー $\beta$ 特性と、 $\beta$ 好適値滑走路憶部201に記憶されている $\beta$ 好適値情報を、アドレス検出部204から供給されるデータに基づき特徴的にア

記憶回路 14 がより供給されるマイクロ演算情報に基づいて、記録レーザーパワーレベルを特定する。図 4 に示すように、 $\beta$  好適情報記憶部 2 D には、光ディスク D の種類(製造メーカーや色素等)毎に、厳密な記録を行うための  $\beta$  値を示す  $\beta$  好適情報が格納されており、図示の例では、A という種類のディスクに対する  $\beta$  値 = 0.1 が  $\beta$  好適情報として格納されている。ここで、 $\beta$  好適情報記憶部 2 O に記憶される情報は予め実験等により各ディスクの種類毎に求められた値である。なお、 $\beta$  好適情報記憶部 2 O には、ディスクの種類毎だけではなく、記録速度(1倍速、4倍速、8倍速……)毎に好適  $\beta$  値を格納するようにしててもよい。

【0033】例えば、図5に示すようなOPC結果(1~5種類の記録レーザパワー値に対応するB値とC1エラ一ー値)が得られた場合には、レーザパワー値特定部202は、このOPC結果の記録レーザパワー値とB値とから、図6に示すような記録レーザパワー値とB値との対応関係を示すパワー特性を求める。また、レーザパワー値特定部202は、B好適信情報記憶部201に記憶されている多數のディスク種類に対応したB好適信情報の中から、アドレス検出部14から供給されるディスクの剥落情報を対応したB好適信情報を取得する。なお、B好適信情報記憶部201に記録迦度(1倍速、1.5倍速、2倍速……)に毎速好適B値が格納されている場合には、設定された記録速度に対応するB好適信情報を取得すればよい。そして、レーザパワー値特定部202は、

(7)

特開2002-260230

11

は、O P C結果に基づいて求めたパワーピーク特性(図6参照)を参照し、取得したC1エラー好適値情報に示されるピークに対応する記録レーザパワー値P1を特定する。

【0034】レーザパワー範囲特定部203は、上述した本番の記録に先立つO P Cにより得られた結果(複数の記録レーザパワー値と各レーザパワー値に対するC1エラー値)から、記録レーザパワー値とC1エラー値との対応関係を示す記録パワー-C1エラー特性を求める。レーザパワー範囲特定部203は、この記録パワー-C1エラー特性と、C1エラー好適値情報記憶部200に記憶されているC1エラー好適値情報と、アドレス検出回路14から供給されるディスク種類情報をに基づいて、記録レーザパワーの取りうる上限値および下限値、すなわち記録レーザパワーの取り得る値の範囲を特定する。図7に示すように、C1エラー好適値情報記憶部200には、光ディスクDの種類(製造メーカや色等)毎に、最適な記録を行ためのC1エラー値が取り得る範囲を示すC1エラー好適値情報が格納されており、図示の例では、Aという種類のディスクに対しては、C1エラー値=「0~1.0」がC1エラー好適値情報として格納されている。ここで、C1エラー好適値情報記憶部200に記憶される情報は予め実験等により各ディスクの種類別に求められた値である。なお、C1エラー好適値情報記憶部200には、ディスクの初期仕様だけではなく、記録速度(1倍速、4倍速、8倍速……)毎に好適なC1エラー値の取り得る範囲を示す情報を格納するようにしてもらいたい。

【0035】例えば、図5に示すO P C結果が得られた場合には、レーザパワー範囲特定部203は、このO P C結果の記録レーザパワー値とC1エラー値とから、図8に示すような記録レーザパワー値とC1エラー値との対応関係を示すパワー-C1エラー特性を求める。また、レーザパワー範囲特定部203は、C1エラー好適値情報記憶部200に記憶されている多数のディスク種類に対応したC1エラー好適値情報の中から、アドレス検出回路14から供給されるディスクの種類情報を対応したC1エラー好適値情報を取得する。なお、C1エラー好適値情報記憶部200に記録速度(1倍速、4倍速、8倍速……)毎に好適なC1エラー値の範囲が格納されている場合には、設定された記録速度に対応するC1エラー好適値情報を取得すればよい。そして、レーザパワー範囲特定部203は、O P C結果に基づいて求めたパワー-C1エラー特性(図8参照)を参照し、取得したC1エラー好適値情報に示されるC1エラー値の範囲内にC1エラー値を収めるための記録レーザパワーの上限値Pj(図示の例では、1.6mW)および下限値Pk(図示の例では、1.3mW)を求めて記録レーザパワーの取り得る範囲Pm(1.3~1.6mW)を特定する。

【0036】最適レーザパワー値決定部204は、上述したようにレーザパワー値特定部202によって特定さ

12

れた記録レーザパワー値Piと、レーザパワー範囲特定部203によって特定された記録レーザパワーの取り得る範囲Pmとにに基づいて、最適な記録レーザパワー値を決定する。具体的には、最適レーザパワー値決定部204は、レーザパワー値特定部202によって特定された記録レーザパワー値Piが、レーザパワー範囲特定部203によって特定された記録レーザパワー値が取り得る範囲Pm内にあるか否かを判別し、記録レーザパワー値Piが範囲Pm内にあると判別した場合には、その記録レーザパワー値Piを最適記録レーザパワー値として決定する。一方、記録レーザパワー値Piが範囲Pm内にない場合には、再度O P Cを行い、当該O P Cの結果に基づいて上記と同様に最適記録レーザパワー値を決定するための処理を行うようにしてほしい。また、記録レーザパワー値Piが範囲Pm内にない場合の決定方法としては、記録レーザパワー値Piと、上限値Pjもしくは下限値Pk(記録レーザパワー値Piに近い方の値)との平均値を最適記録レーザパワー値として決定すれば、PiだけではなくC1エラー値を考慮して最適記録レーザパワー値を決定することができる。

【0037】制御部16は、上述したようにO P C結果から求めた最適記録レーザパワー値を示す制御信号を図1に示すレーザパワー制御回路20に供給し、レーザパワー制御回路20は、光ピックアップ10から光ディスクDに対し照射される記録レーザ光のパワー値が、この最適記録レーザパワー値と一致するようにレーザドライバ19を制御する。

【0038】A-2. 動作以上説明したのが本発明の第1実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成であり、以下記構成の光ディスク記録再生装置による記録時の動作について、図9に示す制御部16がROMに記憶されたプログラムにしたがって実行する処理のフローチャートを参照しながら説明する。

【0039】まず、ユーザによって当該光ディスク記録再生装置に光ディスクDがセットされ、ある記録速度での記録開始が指示されると、制御部16は、O P Cを実行するためにセッティングされた光ディスクDのテスト領域112a(図2参照)にテスト記録を行うために装置各部を制御する(ステップS1a)。具体的にはエンコーダ117にテスト記録用の信号を送出するとともに、レーザパワー制御回路20を制御して記録レーザパワー値を15段階に変化させる。このように装置各部を制御することにより、1つの記録レーザパワー値につき1サブコードフレーム分のE FM信号を記録し、合計15フレーム分のE FM信号を記録するテスト記録を火炎させる。

【0040】テスト記録を火炎するように装置各部を制御すると、制御部16はテスト記録した領域の再生信号から取得されるO P C結果(図5参照)に基づいて、上述したように最適な記録レーザパワー値を決定する(ステップS2a)。この後、制御部16は、ユーザに設定

10

30

40

50

(8)

特開2002-260230

13

された記録速度、および上記のように決定した最適なレーザーパワー値で記録が行われるようレーザーパワーレーザ回路20やサーべ回路13等を制御し、光ディスクDに対する記録処理を実行する(ステップS4)。

【0041】本実施形態では、本番の記録に先立ち、テスト記録を行い、当該テスト記録の再生信号から得られる記録状態の品位を示すβ値およびC1エラー値に基づいて、最適な記録レーザーパワー値を決定し、決定した記録レーザーパワー値で記録を行うことができる。すなわち、従来のOPCでは、β値のみを考慮して最適な記録レーザーパワー値を決定していたが、本実施形態によれば、β値に加え、C1エラー値を考慮して最適な記録レーザーパワー値を決定することができる。したがって、β値のみを考慮したパワー決定方法と比較し、光ディスクDの製品の個体差(例えば、反り、歪み、色ムラ等)等に起因して記録品位が悪化してしまうことを低減できる。例えば、β値が特異に変化するβ特異点を有する特性の光ディスク(図3-2参照)に対し、β特異点に対応する記録レーザーパワー値で記録を行うと、良好な記録状態品位が得られない場合があるが、本実施形態では、β値だけではなく、他の記録品位に関するパラメータを考慮して最適記録レーザーパワー値を決定しているので、β特異点に起因する記録品位の悪化を抑制することができます。

#### 【0042】A-3、変形例

なお、上述した第1実施形態においては、以下に例示するような種々の変形が可能である。

#### 【0043】A-3-1、変形例1

上述した第1実施形態では、テスト記録した領域の再生信号から複数の記録レーザーパワー値に対応するβ値およびC1エラー値を測定し、これらのパラメータを用いて最適な記録レーザーパワー値を決定するようにしていたが、上記テスト記録領域の再生信号から記録状態の品位に関する他の種類のパラメータを取得し、当該取得したパラメータを用いて最適な記録レーザーパワー値を決定するようにもよい。

【0044】例えば、図10に示すように、上記第1実施形態におけるC1エラー検出回路23に代えて、フレーム同期信号検出回路140aおよびカウンタ回路140bを設けるようにし、β値に加え、フレーム同期信号検出回路140aおよびカウンタ回路140bが検出したフレーム同期信号検出回数を用いて最適な記録レーザーパワー値を決定するようにもよい。ここで、フレーム同期信号検出回路140aおよびカウンタ回路140bは、上述した第1実施形態と同様、テスト記録した領域の再生RF信号をEM復調し、得られた信号からEMフレーム同期信号を検出し、検出した回数をカウントし、制御部16に出力する。

【0045】C1エラー値に代えてフレーム同期信号の検出回数を用いる場合、すなわちβ値とフレーム同期信号

10

14

号の検出回数を用いて最適記録レーザーパワー値を決定する場合には、まずフレーム同期信号検出140aおよびカウンタ回路140bから供給されるフレーム同期信号の検出回数とβ検出回数とβ値から供給されるβ値とともに、上記第1実施形態と同様に記録レーザーパワー値とβ値との対応関係を示す記録レーザーパワー値特性(図6参考)を求めるとともに、図11に示すような記録レーザーパワー値とフレーム同期信号検出回数との対応関係を示す記録レーザーパワー値特性を求める。

【0046】そして、上述した第1実施形態と同様に予め記憶されているβ好適値情報に示されるβ値に対応する記録レーザーパワー値P\_t(図6参考)を特定するとともに、図11に示す記録レーザーパワー値特性とフレーム同期信号検出回数特性を参照し、予め記憶されているフレーム同期信号検出回数好適値情報に示される範囲(図示の例では、フレーム同期信号検出回数が90以上)内に収めるための記録レーザーパワーの上限値SPJ(図示の例では、16.5mW)および下限値SPK(図示の例では、1.25mW)を求めて記録レーザーパワーの取り得る範囲SPmを特定する。

【0047】このようにβ値から記録レーザーパワー値P\_tを特定し、フレーム同期信号検出回数から記録レーザーパワー値が取り得る範囲SPmを特定し、上述した第1実施形態と同様に、記録レーザーパワー値P\_tが範囲SPm内にある場合には、記録レーザーパワー値P\_tを最適記録レーザーパワー値として決定する。一方、記録レーザーパワー値P\_tが範囲SPm内にない場合には、再度OPCを行い、当該OPCの結果に基づいて上記と同様に最適記録レーザーパワー値を決定するための処理を行おうにすればよい。また、記録レーザーパワー値P\_tが範囲SPm内にない場合の決定方法としては、記録レーザーパワー値P\_tと上限値SPJもしくは下限値SPK(記録レーザーパワー値P\_tに近い方の値)との平均値を最適記録レーザーパワー値として決定すれば、β値だけではなくフレーム同期信号の検出回数を考慮して最適記録レーザーパワー値を決定することができる。

【0048】また、図12に示すように、C1エラー検出回路23に代えて、ジッター検出回路160を設けるようにし、C1エラー値に代えてジッター検出回路160が検出したジッター値を用いて最適記録レーザーパワー値を決定するようにもよい。ここで、ジッター検出回路160は、イコライザと、スライサー、PLL(pulse-locked loop)回路と、ジッター測定器とを有している。RFアンプ12から供給されるRF信号はイコライザを通過し、イコライザを通過した方がスライサーで2倍化される。そして、2倍化されたRF信号はPLL回路およびジッター測定器の両者に供給される。PLL回路では、2倍化されたRF信号からクロックが生成され、生成されたクロックがジッター測定器へ送られる。ジッター測定器は、このクロックと2倍化されたRF信

30

40

50

(9)

15

号とから、記録されたビットと基準長のずれの標準偏差であるジッターを測定する。

【0049】C1エラー値に代えてジッター値を用いる場合、すなわち $\beta$ 値とジッター値を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合には、まずジッター検出回路160から供給されるジッター値と $\beta$ 検出回路24から供給される $\beta$ 値とから、上記第1実施形態と同様に記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応関係を示す記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応特性(図6参照)を求めるとともに、図13に示すような記録レーザパワー値とジッター値との対応関係を示す記録レーザパワー値とジッター特性を求める。

【0050】そして、上述した第1実施形態と同様に予め記憶されている $\beta$ 好適値情報に示される $\beta$ 値に対応する記録レーザパワー値P1(図6参照)を特定するとともに、図13に示す記録レーザパワー値とジッター特性を参照し、予め記憶されているジッター好適値情報に示される範囲(図示の例では、ジッター値が3.5以下)内に収めるための記録レーザパワーの上限値JPJ(図示の例では、1.6、9mW)および下限値JPK(図示の例では、1.2、1mW)を求めて記録レーザパワーの取り得る範囲JPmを特定する。

【0051】このように $\beta$ 値から記録レーザパワー値P1を特定し、ジッター値から記録レーザパワー値が取り得る範囲JPmを特定し、上述した第1実施形態と同様に、記録レーザパワー値P1が範囲JPm内にある場合には、記録レーザパワー値P1を最適記録レーザパワー値として決定する。一方、記録レーザパワー値P1が範囲JPm内にない場合には、再度OPCを行い、当該OPCの結果に基づいて上記と同様に最適記録レーザパワー値を決定するための処理を行うようにすればよい。また、記録レーザパワー値P1が範囲SPm内にない場合の決定方法としては、記録レーザパワー値P1と、上限値JPJもしくは下限値JP K(記録レーザパワー値P1に近い方の値)との平均値を最適記録レーザパワー値として決定すればよい。

【0052】また、図14に示すように、C1エラー検出回路23に代えて、デバイエーション(Deviation)検出回路180を設けるようにして、デバイエーション検出回路180が検出したデバイエーション値を用いて最適記録レーザパワー値を決定するようにもよい。ここで、デバイエーション検出回路180は、上述したジッター検出回路160と同様のイコライザと、スライサと、PLL回路とをしており、さらにジッター測定器に代えてPLL回路から供給されるクロックと、スライサから供給される2つのRF信号とからデバイエーション(記録ビットと基準長のずれ)を検出するデバイエーション測定器を行っている。

【0053】C1エラー値に代えてデバイエーション値を用いる場合、すなわち $\beta$ 値とデバイエーション値を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合には、まずデビ

特開2002-260230

16

エーション検出回路180から供給されるデバイエーション値と $\beta$ 検出回路24から供給される $\beta$ 値とから、上記第1実施形態と同様に記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応関係を示す記録レーザパワー $\beta$ 特性(図6参照)を求めるとともに、図15に示すような記録レーザパワー値とデバイエーション値との対応関係を示す記録パワー-デバイエーション特性を求める。

【0054】そして、上述した第1実施形態と同様に予め記憶されている $\beta$ 好適値情報に示される $\beta$ 値に対応する記録レーザパワー値P1(図6参照)を特定するとともに、図15に示す記録レーザパワー-デバイエーション特性を参照し、予め記憶されているデバイエーション好適値情報に示される範囲(図示の例では、デバイエーション値が1.2~2.0)内に収めるための記録レーザパワーの上限値DPJ(図示の例では、1.4、5mW)および下限値DPK(図示の例では、1.2mW)を求めて記録レーザパワーの取り得る範囲DPmを特定する。

【0055】このように $\beta$ 値から記録レーザパワー値P1を特定し、ジッター値から記録レーザパワー値が取り得る範囲DPmを特定し、上述した第1実施形態と同様に、記録レーザパワー値P1が範囲DPm内にある場合には、記録レーザパワー値P1を最適記録レーザパワー値として決定する。一方、記録レーザパワー値P1が範囲DPm内にない場合には、再度OPCを行い、当該OPCの結果に基づいて上記と同様に最適記録レーザパワー値を決定するための処理を行おうにすればよい。また、記録レーザパワー値P1が範囲DPm内にない場合の決定方法としては、記録レーザパワー値P1と、上限値DPJもしくは下限値DPK(記録レーザパワー値P1に近い方の値)との平均値を最適記録レーザパワー値として決定すればよい。

【0056】また、C1エラー値に代えて、テスト記録領域の再生時にRFアンプ12から供給されるRF信号の振幅、変調度、反射率といったパラメータを用いて最適記録レーザパワー値を決定するようにしてもよい。ここで、記録レーザパワー値とRF信号の振幅との関係は、図16に示すように記録レーザパワー値の上界に伴って振幅値が上昇し、ある程度以上昇すると振幅値が飽和するといった特性となる。RF信号の振幅を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合には、テスト記録領域の再生する際のRFアンプ12から供給されるRF信号から上記のような記録パワー-振幅特性を求める。そして、求めた特性を参照し、予め記憶されているRF信号の振幅の好適値情報に示される範囲内に収めるための記録レーザパワーの上限値RPJおよび下限値RPKを求めて記録レーザパワー値の取り得る範囲RPmを特定する。そして、上述した第1実施形態と同様、当該範囲RPmと $\beta$ 値から特定された記録レーザパワー値P1とに基づいて最適レーザパワー値を決定すればよい。

【0057】また、変調度と記録レーザパワー値との間

10

20

30

40

50

(10)

係は、図17に示すように上記RF信号の振幅と類似した特性となる。変調度を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合には、テスト記録領域の再生する際のRFアンプ12から供給されるRF信号から上記のような記録パワー変調度特性を求める。そして、求めた特性を参照し、予め記憶されている変調度の好適値情報を示される範囲内に収めるための記録レーザパワーの上限値H<sub>PJ</sub>および下限値H<sub>PK</sub>を求めて記録レーザパワー値の取り得る範囲HPmを特定する。そして、上述した第1実施形態と同様、当該範囲HPmとβ値から特定された記録レーザパワー値P<sub>t</sub>に基づいて最適レーザパワー値を決定すればよい。なお、変調度は、RF信号の最大値をImaxとし、最小値をIminとした場合、変調度=(Imax-Imin)/Imaxで求めることができる。

【0058】また、反射率と記録レーザパワー値との関係は、図18に示すように記録レーザパワー値が大きい程、反射率が低下するほど一次閾値のような特性となる。反射率を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合には、テスト記録領域の再生する際のRFアンプ12から供給されるRF信号から上記のような記録パワー反射率特性を求める。そして、求めた特性を参照し、予め記憶されている反射率の好適値情報を示される範囲内に収めるための記録レーザパワーの上限値HS<sub>PJ</sub>および下限値HS<sub>PK</sub>を求めて記録レーザパワー値の取り得る範囲HSPmを特定する。そして、上述した第1実施形態と同様、当該範囲HSPmとβ値から特定された記録レーザパワー値P<sub>t</sub>に基づいて最適レーザパワー値を決定すればよい。なお、反射率は、RFアンプ12から供給されるRF信号をロープルフィルタを通して平均化することにより求めることができる。

### 【0059】A-3-2. 变形例2

また、上述した第1実施形態および変形例においては、テスト記録の結果により得られたβ値から1点の記録レーザパワー値を特定し、他のパラメータ(C1エラー値、フレーム同期信号の検出回数、ジッター値、デビエーション値、RF信号の振幅、変調度、反射率)から記録レーザパワー値の取り得る範囲を求めるよう正在していいたが、他のパラメータを用いて1点の記録レーザパワー値を特定し、β値を用いて記録レーザパワーの取り得る範囲を特定するようにもよい。

【0060】また、β値を用いずに、上述したC1エラー値、フレーム同期信号の検出回数、ジッター値、デビエーション値、RF信号の振幅、変調度、および反射率といった記録状態の品位に関するパラメータの2つ以上を用いて最適記録レーザパワー値を決定するようにもよい。例えば、C1エラー値を用いて1点の記録レーザパワー値を特定するとともにし、フレーム同期信号の検出回数を用いて記録レーザパワー値が取り得る範囲を特定し、これらの特定された記録レーザパワー値および

特開2002-260230

18

範囲に基づいて最適記録レーザパワー値を決定するようにしてよい。

【0061】また、上述した第1実施形態では、1つのあるパラメータ(第1実施形態ではβ値)から1点の記録レーザパワー値を特定し、他のパラメータ(第1実施形態ではC1エラー値)から記録レーザパワー値の取り得る範囲を特定し、あるパラメータから特定した一点の記録レーザパワー値が他のパラメータから特定した範囲内にあれば、一点の記録レーザパワー値を最適レーザパワー値として決定するようにしていたが、これ以外の手法で最適記録レーザパワー値を決定するようにしてよい。例えば、β値から特定した1点の記録レーザパワー値と、C1エラー値から特定した1点の記録レーザパワー値とその平均値を最適記録レーザパワー値として決定するようにしてよい。

【0062】また、上述した第1実施形態では、β値とC1エラー値といった2つの記録状態の品位に関するパラメータを用いて最適記録レーザパワー値を求めるようにしていたが、上述した様々なパラメータ(C1エラー値、フレーム同期信号の検出回数、ジッター値、デビエーション値、RF信号の振幅、変調度、反射率)のうち、3つ以上のパラメータを用いて最適記録レーザパワー値を決定するようにしてよい。例えば、β値、C1エラー値およびフレーム同期信号の検出回数といった3つのパラメータを用いて最適記録レーザパワー値を求める場合には、上述した第1実施形態と同様に、記録パワーβ特性(図6参照)から記録レーザパワー値P<sub>t</sub>を特定すると共に、記録パワー-C1エラー特性および記録パワー-フレーム同期信号検出回数特性から記録レーザパワー値の取り得る範囲を求めるようすればよい。

【0063】B. 第2実施形態

40 次に、本発明の第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置について図20および図21を参照しながら説明する。図20に示すように、第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置は、上述した第1実施形態におけるβ検出回路24を有していない点で上記第1実施形態に係る光ディスク記録再生装置と構成している。C1エラー検出回路23は、上記第1実施形態と同様に行われたテスト記録領域の再生時にRFアンプ12から供給されるRF信号からC1エラーを測定し、その測定結果であるC1エラー値を制御部16に出力する。

【0064】第2実施形態における制御部16は、最適

50

(11)

19

記録レーザパワー値の決定方法が上記第1実施形態における制御部16と相違しており、第2実施形態における制御部16による最適記録レーザパワー値を決定する処理に着目した制御部16の機能構成を図21に示す。同図に示すように、制御部16は、C1エラー好適値情報記憶部220と、最適記録レーザパワー値決定部221とを有している。

【0065】最適記録レーザパワー値決定部221は、本番の記録に先立つOPCによって得られた結果(複数の記録レーザパワー値とこれに対応するC1エラーベクトル)から、図22に基づくような記録レーザパワー値とC1エラーベクトルとの対応関係を示す記録パワー-C1エラーベクトル特性を求める。最適記録レーザパワー値決定部221は、この記録パワー-C1エラーベクトル特性と、C1エラー好適値情報記憶部220に記憶されているC1エラー好適値情報と、アドレス検出回路14から供給されるディスク種類情報を基づいて、記録レーザパワー値を特定する。C1エラー好適値情報記憶部220には、光ディスクDの種類(製造メーカーや色素等)毎に、最適な記録を行なうためのC1エラーベクトルを示すジッタ-好適値情報が格納されており、ここで、C1エラー好適値情報記憶部220に記憶される情報は予め火炎等により各ディスクの種類毎に求められた値である。

【0066】図22に示すような記録レーザパワー値とC1エラーベクトルとの対応関係を示すパワー-C1エラーベクトル特性を求めていた場合には、最適記録レーザパワー値決定部221は、C1エラー好適値情報記憶部220に記憶されている多数のディスク種類に対応したC1エラー好適値情報の中から、アドレス検出回路14から供給されるディスクの種類情報に対応したC1エラー好適値情報CJK (=0でもよい)を取得する。そして、最適記録レーザパワー値決定部221は、OPC結果に基づいて求めたパワー-C1エラーベクトル特性を参照し、取得したC1エラー好適値情報に示されるC1エラーベクトルに対応する記録レーザパワー値P<sub>t'</sub>を決定する。そして、制御部16は、決定した記録レーザパワー値P<sub>t'</sub>のレーザ光が光ビックアップ10から光ディスク28に照射されるようにレーザパワー制御回路20等の装置各部を制御する。

【0067】第2実施形態によれば、β値以外のパラメータであるC1エラーベクトルを考慮して最適な記録レーザパワー値を決定することができる。例えば、β値が特異的に変化するβ値特異点を有する特性の光ディスク(図32参照)に対し、β特異点に対応する記録レーザパワー値で記録を行うと、良好な記録状態が得られない場合があるが、本火炎形態では、β値ではなく、他の記録品位に関するパラメータを考慮して最適記録レーザパワー値を決定しているので、β特異点に起因する記録品位の悪化を抑制することができる。

【0068】なお、第2実施形態では、C1エラー検出回路23を設けてテスト記録領域の再生信号からC1エ

特開2002-260230

20

ラー値を検出し、当該C1エラー値が予め記憶された好適な値となる記録レーザパワー値を最適レーザパワー値として決定するようになっていたが、ジッタ-値、フレーム同期信号の検出回数、デピエーション値、RF信号の振幅といった記録状態の品位に関するパラメータを検出し、これらのパラメータのうちのいずれかを用いて最適記録レーザパワー値を決定するようとしてもよい。

【0069】また、上述した第2実施形態では、C1エラー好適値情報記憶部220に記憶されているC1エラーベクトルの好適値CJKに対応する記録レーザパワー値P<sub>t'</sub>を最適記録レーザパワー値として決定するようになっていたが、B値以外の上記パラメータから最適記録レーザパワー値を決定する場合には、次のような手法を用いるようとしてもよい。

【0070】例えば、テスト記録した領域のRF信号からフレーム同期信号の検出回数を検出した場合に、図23中英縦表示記録パワーフレーム同期信号検出回数特性が得られたとする。このような特性が得られた場合に、最適記録レーザパワー値を決定する方法としては、まず最小二乗法により、実線で示されるテスト記録の結果得られた記録パワーフレーム同期信号検出回数特性に近似する二次回数を求める(図中一点鎖線で示す)。例えば、この二次回数がフレーム同期信号検出回数(SYEQ) =  $a p^2 + b p + c$ で表されたとすると( $p$ は記録レーザパワー値を示す変数、 $a$ 、 $b$ 、 $c$ は固定値)、当該二次回数を微分し、(単位記録レーザパワーあたりのフレーム同期信号検出回数の変化量(以下、ΔSYEQとする)) =  $a p + b$ を求める。このように求められたΔSYEQと記録レーザパワー値との対応関係が図24に示すように一次回数で表されることになり、この図に示される記録パワー-ΔSYEQ特性を参照し、予め記憶されている好適なΔSYEQ値SKに対応する記録レーザパワー値P<sub>t'</sub>を最適記録レーザパワー値として決定する。

【0071】また、テスト記録した領域のRF信号をE/F復調した信号からC1エラーベクトルを検出して最適記録レーザパワー値を決定する場合にも、上記フレーム同期信号検出回数を用いて最適記録レーザパワー値を決定する場合と同様に、図25中英縦表示記録パワー-C1エラーベクトル特性に近似する二次回数を最小二乗法により求める(図中一点鎖線で示す)。そして、上述したフレーム同期信号の検出回数を用いる場合と同様に、求めた二次回数を微分することにより、図26に示す記録パワー-ΔC1エラーベクトル特性を求める。この図に示される記録パワー-ΔC1エラーベクトル特性を参照し、予め記憶されている好適なΔC1エラーベクトルC Kに対応する記録レーザパワー値P<sub>t'</sub>を最適記録レーザパワー値として決定する。

【0072】また、上述した変形例では、記録パワーフレーム同期信号検出回数特性や記録パワー-C1エラーベクトル特性に近似する二次回数を最小二乗法により求め、当

50

(12)

特開2002-260230

22

21

該二次閾数を微分した一次閾数によって表される $\Delta S$ を $\Delta F_Q$ や $\Delta C_1$ エラー値が好適値となる記録レーザパワー値を最適値として決定するようになっていたが、上記と同様に記録パワーフレーム同期信号検出回数特性等に近似する二次閾数を求め、図27に示すように、求めた二次閾数(一点鎖線)の曲線とフレーム同期信号検出回数=0の直線とを覆う部分の面積をSとした場合に、面積Sの40%の面積となる記録レーザパワー値P<sub>S1</sub>を最適値として決定するといった手法を用いるようとしてもよい。この場合、予め実験を行うことにより、どの程度の面積比率が好適な記録を行える記録レーザパワー値となりうるかを求めておき、当該実験結果により求められた面積比率を記憶しておくようにすればよい。

【0073】また、上記のように面積Sの割合で最適な記録レーザパワー値を決定する以外にも、図28に示すように、上記と同様に求めた二次閾数の曲線と、予め設定されたフレーム同期信号検出回数の値(図示の例では、フレーム同期検出回数=50)の直線F<sub>50</sub>との交点となる記録レーザパワー値P<sub>SK</sub>、P<sub>SJ</sub>を求め、これららの値から最適な記録レーザパワー値を決定するようとしてもよい。例えば、図示のように、最適レーザパワー値P<sub>S</sub>を、以下のような式により求めてもよい。 $P_S = (P_{SK} - P_{SJ}) * 0.4 + P_{SK}$ このような式を用いることにより、交点となる記録レーザパワー値P<sub>SK</sub>、P<sub>SJ</sub>との間の値であり、かつ両交点間の距離のP<sub>SK</sub>から40%となる値(P<sub>SJ</sub>から60%の値)求め、これを最適記録レーザパワー値として決定するようにしてもよい。

【0074】また、上述したフレーム同期信号の検出回数やC<sub>1</sub>エラー値を用い、これらの特性を最小二乗法により二次閾数で表し、該二次閾数を微分もしくは二次閾数曲線に因まる面積等を求ることにより、最適記録レーザパワー値を求める手法は、上記フレーム同期信号検出回数、C<sub>1</sub>エラーといったパラメータにも適用できるし、これら以外のジッターバリ等のパラメータにも適用することも可能である。

#### 【0075】C. 第3実施形態

次に、本発明の第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置について説明する。第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成は図1に示す第1実施形態に係る光ディスク記録再生装置とほぼ同様であり、制御部16による最適記録レーザパワー値の決定方法が第1実施形態と相違している。したがって、以下においては、第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置の制御部16による最適記録レーザパワー値の決定方法について、当該最適記録レーザパワー値を決定する処理に着目した制御部16の機能構成を示す図29を参考しながら説明する。

【0076】同図に示すように、第3実施形態における制御部16は、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300と、 $\beta$ 特異点検出部301と、最適レーザパワー値決定部302と有

している。

【0077】 $\beta$ 特異点検出部301は、本番の記録に先づつOPCにより得られた結果(複数の記録レーザパワー値と各レーザパワー値に対応する $\beta$ 値)から、図30に示すような記録レーザパワー値と $\beta$ 値との対応関係を示す記録レーザパワー特性を求め、さらに図31に示すような単位記録レーザパワー値あたりの $\beta$ 値の変化量、すなわち $\beta$ 値の微分値である $\Delta \beta$ 値と、記録レーザパワー値との対応関係を示す記録レーザパワー $\Delta \beta$ 特性を求める。

【0078】 $\beta$ 特異点検出部301は、この記録レーザパワー $\Delta \beta$ 特性と、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300に記憶されている $\beta$ 値情報とにに基づいて、 $\beta$ 値と記録レーザパワー値との対応関係が他の部分と異なる部分、すなわち $\beta$ 値が特異に変化する $\beta$ 特異点を検出する。 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300には、予め実験により求められた $\beta$ 特異点を検出するための $\Delta \beta$ 値の閾値B<sub>T</sub>が格納されている。図30に示すように、 $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>は、他の部分と比較して $\Delta \beta$ の値が小さくなる部分であるため、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300に格納されている $\Delta \beta$ 値の閾値B<sub>T</sub>よりも $\Delta \beta$ 値が小さくなる部分を $\beta$ 特異点として検出することができる。図30に示す例では、記録レーザパワー値が1.5~1.6mW近傍の部分が $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>となっており、図31に示すように、この $\beta$ 値特異点B<sub>T</sub>の部分(記録レーザパワー値が1.5~1.6mW近傍)の $\Delta \beta$ 値が他の部分より小さくなっているのが分かる。 $\beta$ 特異点検出部301は、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300に格納されている $\Delta \beta$ 値の閾値B<sub>T</sub>よりも $\Delta \beta$ 値が小さい部分を $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>として検出し、当該 $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>に対応する記録レーザパワー値(下限値P<sub>BK</sub>~上限値P<sub>BJ</sub>)を求める。

【0079】また、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300には、上述したような $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>を検出するための $\Delta \beta$ 値の閾値B<sub>TS</sub>に加え、記録レーザパワー値の取り得る範囲を特定するための $\Delta \beta$ 値の閾値B<sub>CS</sub>が格納されている。最適レーザパワー値決定部302は、図31に示される記録レーザパワー $\Delta \beta$ 特性を参照し、 $\Delta \beta$ 値情報記憶部300に格納されている閾値B<sub>CS</sub>よりも大きい $\Delta \beta$ 値となる記録レーザパワー値の範囲(P<sub>Bm1</sub>, P<sub>Bm2</sub>)を特定する。そして、最適レーザパワー値決定部302は、上述したように $\beta$ 特異点検出部301によって求められた $\beta$ 特異点B<sub>T</sub>に対応する記録レーザパワー値P<sub>BK</sub>よりも小さいレーザパワー値であって、上記記録レーザパワー値の範囲P<sub>Bm1</sub>, P<sub>Bm2</sub>に属する記録レーザパワー値を最適記録レーザパワー値として決定する。

【0080】第3実施形態における制御部16は、上記のように決定した最適記録レーザパワー値で記録が行われるように当該光ディスク記録再生装置の装置各部を制御する。 $\beta$ 特異点を有する特性の光ディスクに対して記録を行う際に、 $\beta$ 値が特異に変化する $\beta$ 特異点に対応

50

(13)

特開2002-260230

24

23

する記録レーザパワー値（図3-1に示す例では、1.5、5mW等）で当該特性を有する光ディスクに記録を行うと、良好な記録状態品位が得られない場合があるが、本実施形態では、上記のように△β値を求めてβ特異点を検出し、当該β特異点に対応する記録レーザパワー値よりも小さい記録レーザパワー値での記録を行うようにしているので、β特異点に起因する記録品位の悪化を抑制することができる。

【0081】なお、このように△β値を求めて最適記録レーザパワー値の決定に用いる場合には、当該△β値に加え、上述した他のパラメータ（C1エラー値、フレーム同期信号検出回数、ジッターバリュ、デビエーション値、RF信号の振幅、変調度、反射率）を用いて最適記録レーザパワー値を決定するようにしてよい。例えは、△β値に加え、フレーム同期信号検出回数およびC1エラー値を用いる場合には、上述した第3実施形態と同様に記録パワー△β特性から記録レーザパワー値の取り得範囲を求めると共に、記録パワー-C1エラー特性および記録パワー-フレーム同期信号検出回数特性から記録レーザパワー値の取り得範囲を求めるようすればよい。例えは、図3-2に示すように、記録パワー-C1エラー特性から記録レーザパワー値が取り得る範囲Pmが判定され、記録パワー-フレーム同期信号検出回数特性から記録レーザパワー値が取り得る範囲Spmが判定され、さらには記録パワー△β特性から記録レーザパワー値が取り得る範囲Pbmが判定された場合には、範囲Pmと範囲Spmと範囲Pbmとが重なる部分の範囲Kpmに収まるような記録レーザパワー値を最適記録レーザパワー値として決定するようすればよい。

#### 【0082】D. 変形例

なお、本発明は、上述した様々な実施形態に限定されるわけではなく、以下に例示するような種々の変形が可能である。

【0083】上述した各実施形態では、スピンドルモータ11が光ディスクDを一定線速度で駆動するCLV方式で記録を行なうようにしてはいたが、光ディスクDを角度一定で駆動する方式（CAV: Constant Angular Velocity）で記録を行なうようにしてもよい。CAV方式で記録を行なう場合には、記録位置が外周側になるにつれて記録線速度が大きくなるため、記録線速度の変化に応じて記録レーザパワー値を変更する必要がある。したがって、CAV方式で記録を行なう場合には、上述した様々な実施形態で説明した最適記録レーザパワー値の決定処理を複数の記録線速度に対して行い、複数の記録速度と、各記録速度に対応する最適記録レーザパワー値との対応関係を示す記録速度-最適パワー特性を求め、当該記録速度-最適パワー特性を参照し、記録線速度の変化に伴って最適記録レーザパワー値を変更するようすればよい。

【0084】また、上述した第1および第2実施形態、

10

ならびに各変形例では、β値とC1エラー値（第1実施形態）といったようにO.P.Cにおけるテスト記録した領域の再生信号から2つ以上のパラメータを取得し、取得したパラメータを用いて最適な記録レーザパワー値を決定するようにしていた。しかしながら、各パラメータを検出する回路の能力が乏しい場合等には、高速記録での最適記録レーザパワー値を求めるために、高速（例えは、1.6倍速）でテスト記録した領域を記録速度と同じ高速で再生した場合には、複数のパラメータを同時に測定する処理が再生速度に追従できず、その再生信号から正確にβ値やC1エラー値といったパラメータを取得できなくなる虞がある。したがって、パラメータを取得するためのサンプリング周期を間引く（例えは、周期を2倍にする）といったことが考えられるが、C1エラー値を取得する場合には、最大のC1エラー値が4.8（通常、9.8）となり、正確性に問題のある値となってしまう。

【0085】このような高速記録のためのO.P.Cにより複数のパラメータを正確に取得することが困難である点に考慮し、O.P.Cの記録速度は高速でいい、再生を該記録速度より小さい速度でいい、低い再生速度で得られた再生信号から複数のパラメータを測定することにより、より正確に複数のパラメータを取得できるようにしてよい。

【0086】また、別の手法として、O.P.Cの記録速度は高速でいい、該記録領域の再生を複数回行い、複数回の再生により得られた複数の再生信号の各々から測定したパラメータを平均等することによりパラメータの測定精度を向上させるようにしてよい。また1回目の再生信号はβ値のみを測定するために用い、2回目の再生信号はC1エラー値を求めるといったように複数得られた再生信号の各々を1種類のパラメータを測定するために用いるようにしてよい。もちろん、これら複数回の再生を記録速度よりも小さい速度で行なうようにしてよい。

【0087】また、上述した様々な実施形態では、光ディスクDとしてCD-Rを用いた場合には例を挙げて説明したが、これ以外にもCD-RW、DVD-R、DVD-RAM（DVD-Random Access Memory）、PC-RW（Phase Change-ReWritable）等に記録する際にも適用することができる。

【0088】なお、上述したような最適な記録レーザパワー値の決定処理を含む記録処理を実行する制御部16は専用のハードウェア回路で構成するようにしてよいし、CPU（Central Processing Unit）等から構成するようにして、ROM（Read Only Memory）等の記憶手段に格納されたプログラムを実行することにより上記処理をソフトウェアで実現するようにしてよい。このようにソフトウェアで上記処理を行う場合には、上記処理をコンピュータに実現させるためのプログラムを記録した

50

(14)

特開2002-260230

26

25

CD-ROMやフロッピー(登録商標)ディスク等の様々な記録媒体をユーザに提供するようにしてもよいし、インターネット等の伝送媒体を介してユーザに提供するようにもよい。

【0089】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、記録する光ディスクの製品の個体差に問わらず、記録エラーの発生を低減することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成を示すブロック図である。

【図2】 光ディスクにおける前記光ディスク記録再生装置によるテスト記録が行われる領域を説明するための図である。

【図3】 前記光ディスク記録再生装置の構成要素である制御部の機能構成を示すブロック図である。

【図4】 前記制御部の構成要素である**β**好適度情報記憶部の記憶内容を説明するための図である。

【図5】 前記光ディスク記録再生装置によって行われたテスト記録によって得られる記録レーザパワー値毎の**β**値とC1エラー値との一例を示す図である。

【図6】 記録レーザパワー値と**β**値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図7】 前記制御部の構成要素であるC1エラー好適度情報記憶部の記憶内容を説明するための図である。

【図8】 記録レーザパワー値とC1エラー値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図9】 前記光ディスク記録再生装置による記録時に前記制御部が実行する処理を示すフローチャートである。

【図10】 前記光ディスク記録再生装置の変形例の構成を示すブロック図である。

【図11】 前記光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値とフレーム同期信号検出回数との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図12】 前記光ディスク記録再生装置の他の変形例の構成を示すブロック図である。

【図13】 前記光ディスク記録再生装置の他の変形例において、記録レーザパワー値とジッターベースとの対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図14】 前記光ディスク記録再生装置のさらに他の変形例の構成を示すブロック図である。

【図15】 前記光ディスク記録再生装置のさらに他の変形例において、記録レーザパワー値とデビエーション値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

(14)

【図16】 前記光ディスク記録再生装置において、記録レーザパワー値とRF信号の振幅値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図17】 前記光ディスク記録再生装置において、記録レーザパワー値と変調度との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図18】 前記光ディスク記録再生装置において、記録レーザパワー値と反射率との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図19】 前記光ディスク記録再生装置のさらにその他の変形例において、最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図20】 本発明の第2実施形態に係る前記光ディスク記録再生装置の構成を示すブロック図である。

【図21】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成要素である制御部の機能構成を示すブロック図である。

【図22】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置において、記録レーザパワー値とジッターベースとの対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図23】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値とフレーム同期信号検出回数との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図24】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値と△フレーム同期信号検出回数との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図25】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値とC1エラー値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図26】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値と△C1エラー値との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図27】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値とフレーム同期信号検出回数との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理の変形例を説明するための図である。

【図28】 前記第2実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、記録レーザパワー値とフレーム同期信号検出回数との対応関係から最適記録レーザパワー値を決定する処理の他の変形例を説明するための図である。

50 である。

(15)

特開2002-260230

27

28

【図29】 本発明の第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置の構成要素である制御部の機能構成を示すブロック図である。

【図30】 前記第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置によって行われたテスト記録により得られた記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係の一例を示す図である。

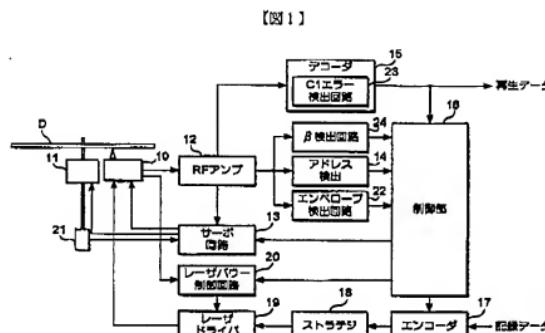
【図31】 前記第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置において、記録レーザパワー値と $\Delta\beta$ 値との対応関係から、最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図32】 前記第3実施形態に係る光ディスク記録再生装置の変形例において、最適記録レーザパワー値を決定する処理を説明するための図である。

【図33】 光ディスクDにテスト記録を行った領域の再生信号から得られる記録レーザパワー値と $\beta$ 値との関係の一例を示す図である。

【符号の説明】

\*



【図1】

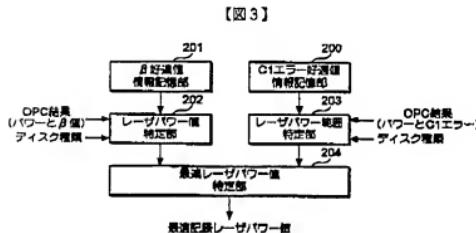
【図4】

ディスクの種類	β好適値情報
A	0
B	-1
C	2
⋮	⋮

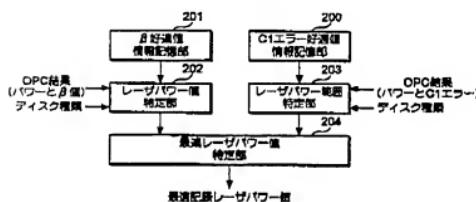
【図5】

No.	記録パワー	$\beta$	C1Error
1	11.0	-31	98
2	11.6	-26	98
3	12.0	-22	52
4	12.5	-18	10
5	13.0	-12	2
6	13.5	-8	0
7	14.0	-3	0
8	14.5	1	0
9	15.0	3	0
10	15.5	4	0
11	15.0	5	3
12	15.5	10	12
13	17.0	14	78
14	17.5	20	98
15	18.0	24	98

OPC結果



【図3】

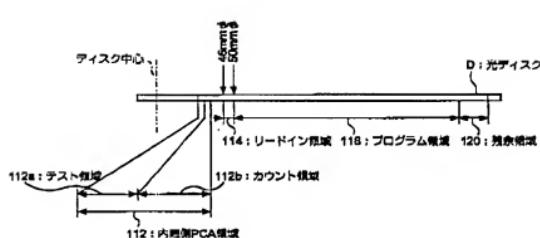


最適記録レーザパワー値

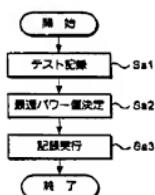
(16)

特開2002-260230

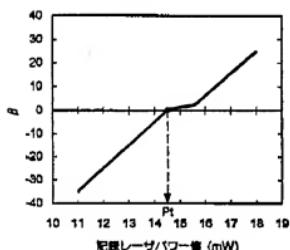
【図2】



【図9】



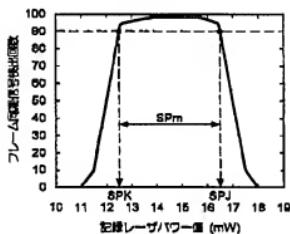
【図6】



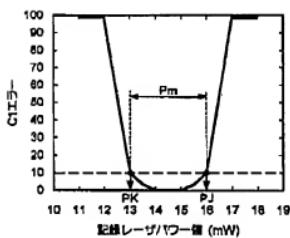
【図7】

ディスクの種類	C1エラー好適範囲
A	0 ~ 10
B	0 ~ 8
C	0 ~ 12
⋮	⋮

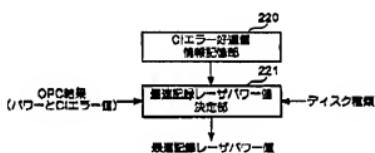
【図11】



【図8】



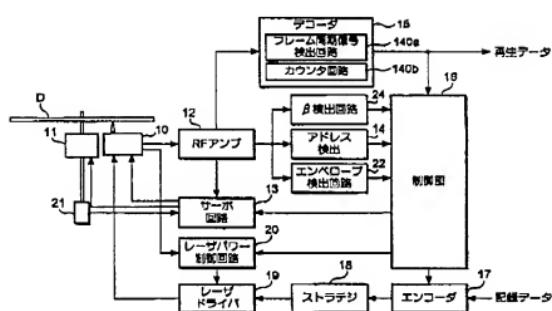
【図21】



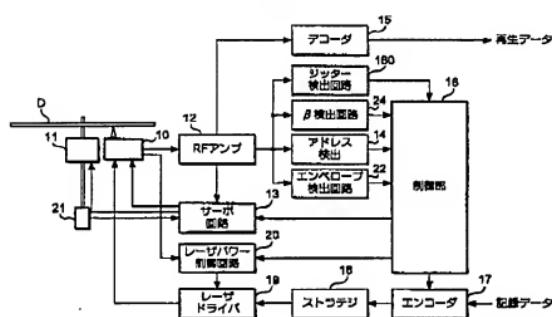
(17)

特開2002-260230

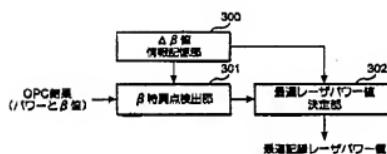
【図10】



【図12】



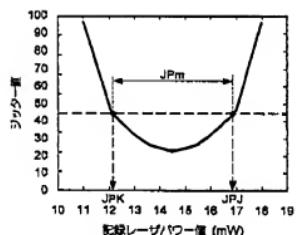
【図29】



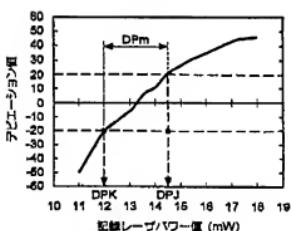
(18)

特開2002-260230

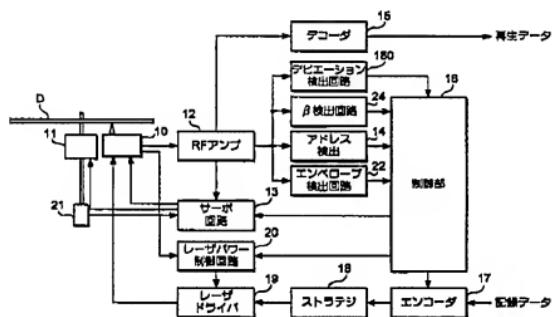
【図13】



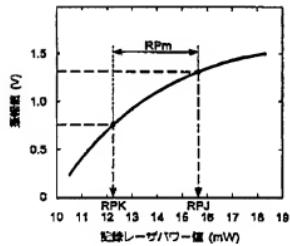
【図15】



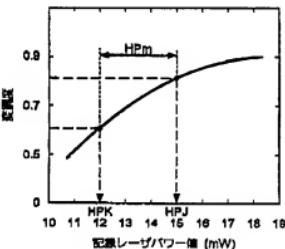
【図14】



【図16】



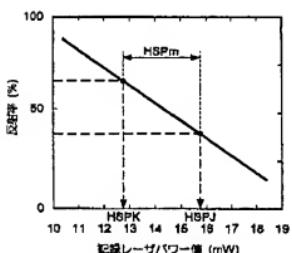
【図17】



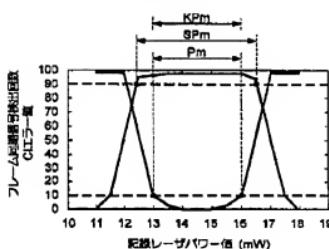
(19)

特開2002-260230

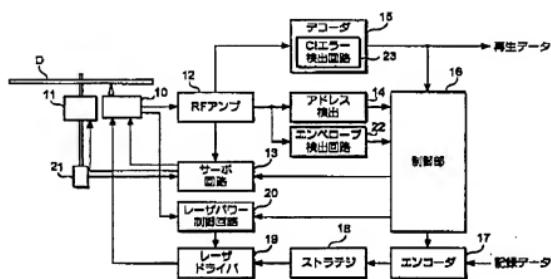
【図18】



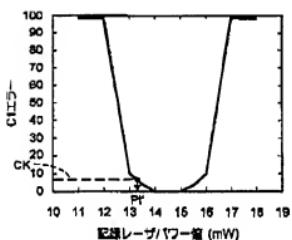
【図19】



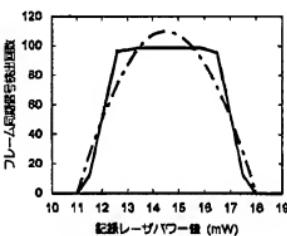
【図20】



【図22】



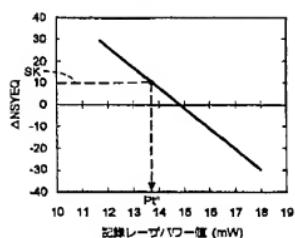
【図23】



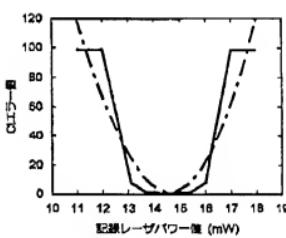
(20)

特開2002-260230

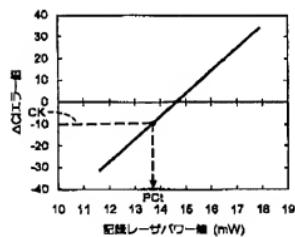
【図24】



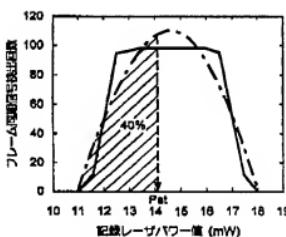
【図25】



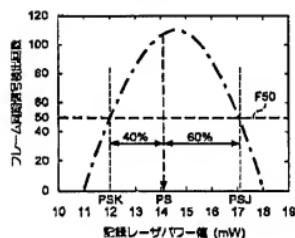
【図26】



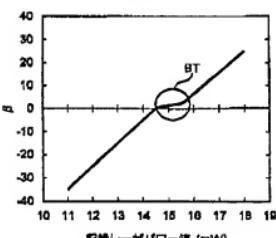
【図27】



【図28】



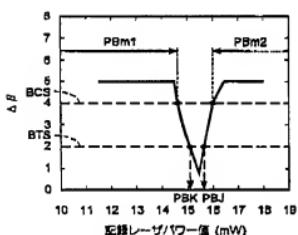
【図30】



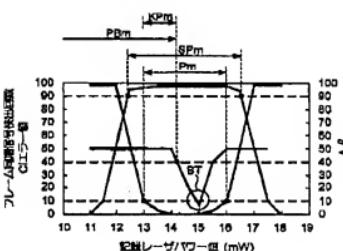
(21)

特開2002-260230

【図31】



【図32】



【図33】

